Japanese Journal of Applied Psychology
2000, No. 26, 51-66

日本応用心理学会第66回大会第1日に，運営委員会および総会が開かれ，常任運営委員会提出の原案は承認された。また，引き続き行われた総会では，運営委員会承認事項がすべて承認された。

日本応用心理学会1999年度運営委員会

日　時：1999年9月11日（土）11：15～12：15
場　所：東京国際大学第1キャンパス1号館122教室

1．開会
2．会長挨拶　稲毛教子東京国際大学教授
3．議長選出　事務局長推薦により稲毛会長を選任。
4．報告事項
　1）事業報告
　(1) 会員の異動および会費の納入状況について（荻野事務局長）
　(2) 規則の改訂および新規程について（荻野事務局長）
　i 認定「応用心理士」認定審査委員会規則第4条1項の改訂
　（旧）　委員長は委員の互選による。
　（改訂）委員長は本学会常任運営委員会で選出する。
　ii 国際交流委員会の発足と規程
　iii シンポジウム委員会の発足と規程
　iv 広報委員会の発足と規程
　v 研修委員会の発足と規程
　(3) 委員会報告
　i 機関誌編集委員会（越河委員）
　25,26,27号の発行を予定。投稿および執筆規程の改定を検討中。
　ii 認定「応用心理士」認定審査委員会（岡村委員長）
　1998年度に27名を認定。現在の登録者数147名。申請書類の簡略化を行う。
　iii 学会賞・奨励賞審査委員会（正田委員長）
　第1次選考として，学会賞に向井希広氏，奨励賞に申紅仙氏を第1順位として推薦した。
　iv 学会史編集委員会（村井委員長に代わり事務局長）
　補遺発行のために資料の発掘，収集を行っている。
　v 国際交流委員会（長塚委員長）
　委員会および学会としての国際交流活動の進め方を検討。国際応用心理学会第25回大会（2002年，シンガポール）への会員の参加，国際応心（IAAP）への入会の促進，本学会主催の国際シンポジウム，講演，共同研究等。
　vi シンポジウム委員会（平野委員長）
　公開シンポジウム「子どもの発達環境における諸問題」（1999年1月30日）を開催（「応用心理学研究25号」に掲載の予定）。
　vii 広報委員会（林委員長）
　ニュースレターを年に2回発行する予定である。
　viii 研修委員会（大久保委員長）
　研修会の目的，対象，方法，内容，時期等について検討を始めていく。
　2）1998年度（第65回）大会報告（田中昌人前大会委員長）
　大会決算報告
　3）日本心理学諸学会間連絡会について（林委員）
　連絡会は日本心理学諸学会連合の成立に伴い，解散の方向を検討している。
　4）日本心理学諸学会連合について（稲毛会長）
　連合の発足と第1回理事会の報告
5．審議事項
　1）1998年度決算について
　荻野事務局長，岡村認定応用心理士事務局長による説明と，山本監査委員による報告がなされ，決算書を承認。
　2）1999年度予算について
　荻野事務局長，岡村認定応用心理士事務局長による説明がなされ予算書を承認。
　3）名誉会員推薦について
　大島貞夫，中原弘之，山岡淳の3氏の推薦を承認。
　4）2001年度（第68回）大会開催校について
　岩手県立大学に依頼することを承認。
6．閉会

日本応用心理学会1999年度総会

日　時：1999年9月11日（土）12：15～13：15
場　所：東京国際大学第1キャンパス1号館112教室
1．開会
2．会長挨拶 稲毛教子東京国際大学教授
3．議長選出 事務局長推薦により稲毛会長を選任。
4．報告事項
　1) 事業報告
　(1) 会員の異動および会費の納入状況について（荻野事務局長）
　(2) 規則の改訂および新規程について（荻野事務局長）
　(3) 委員会報告
　2) 1998年度（第65回）大会報告（田中昌人前大会委員長）
　大会決算報告
　3) 日本心理学諸学会間連絡会について（林委員）
　4) 日本心理学諸学会連合について（稲毛会長）
5．審議事項
　1) 1998年度決算について
　決算書を承認。
　2) 1999年予算について
　予算書を承認。
　3) 名誉会員推薦について
　大島貞夫，中原弘之，山岡淳の3氏の推薦を承認。
　4) 2001年度（第68回）大会開催校について
　岩手県立大学に依頼することを承認。
6．学会賞・奨励賞授与
　学会賞 向井希広氏，奨励賞 申紅仙氏に賞状と賞金が授与された。
7．1999年度（第67回）大会開催校挨拶（坂野副会長）
8．2000年度（第68回）大会開催校挨拶（細江岩手県立大学教授）
9．閉会

・日本応用心理学会認定「応用心理士」認定審査委員会規則　別掲
・国際交流委員会規程　別掲
・シンポジウム委員会規程　別掲
・広報委員会規程　別掲
・研修委員会規程　別掲
・第65回大会決算報告　別掲
・1998年度決算書　別掲
・1999年度予算書　別掲

日本応用心理学会認定「応用心理士」認定審査委員会規則

（趣旨）

第1条　この規則は，日本応用心理学会認定「応用心理士」認定制度規則第2条第2項に基づき，日本応用心理学会認定「応用心理士」認定審査委員会（以下「認定審査委員会」という。）に関し，必要な事項を定める。

（任務）

第2条　認定審査委員会は，日本応用心理学会（以下「本学会」という。）の会長が行う日本応用心理学会認定「応用心理士」（以下「応用心理士」という。）の認定に関し，必要な審査を行う。

2　認定審査委員会は，前項の審査の結果を，本学会会長に報告するものとする。

（組織）

第3条　認定審査委員会は，本学会運営委員会が推薦し，本学会会長が任命した委員若干名をもって組織する。

2　委員の任期は2年とし，再任を妨げない。ただし，原則として6年を超えてはならない。また，委員に欠員が生じた場合の補欠の委員の任期は，前任者の残任期間とする。

（委員長）

第4条　認定審査委員会に委員長を置く。委員長は本学会常任運営委員会で選出する。

2　委員長は，認定審査委員会を招集し，その議長となる。

（会議）

第5条　認定審査委員会は，委員の3分の2以上の出席により成立し，議事は，出席委員の過半数をもって決

する。ただし，可否同数のときは，議長の決するところによる。

2　認定審査委員会における議事は非公開とする。

（委員の遵守義務）

第６条　委員は，審査に関し，公正にその職務を行い，職務上知ることのできた秘密を漏らしてはならない。

2　本学会会長は，委員の遵守すべき義務に関し，監督の責任を負う。

（改正）

第７条　この規則の改正は，認定審査委員会の議を経て，本学会運営委員会で行う。

附則　この規則は，平成５年９月11日から実施する。
平成10年９月５日一部改訂実施。
平成11年３月26日一部改訂実施。

日本応用心理学会国際交流委員会規程（1999.3.26.常任運営委員会承認）

（趣旨）

第１条　応用心理学研究についての国際交流の促進を図るために，日本応用心理学会（以下，「本学会」という）に，国際交流委員会（以下「委員会」という）を置く。

（組織）

第２条　委員会の委員（以下「委員」という）は，国際学会において研究発表の経験を有する者であって，その定数は５名とする。

2　委員長は本学会常任運営委員会で選出する。

3　委員長は，第１項の条件に該当する常任運営委員より委員を指名する。ただし必要に応じて，常任運営委員会の承認を得て運営委員より委員を指名することができる。

4　委員の任期は２年とする。ただし，再任を妨げない。

第３条　委員会には，必要に応じて国際交流委員会協力員（以下「協力員」という）若干名を置くことができる。

2　協力員は，本学会員の中から，委員会の議を経て委員長が指名する。

3　協力員は，委員の下で委員会の業務を補佐する。

4　協力員の任期は２年とする。ただし再任を妨げない。

第４条　国際交流委員会の事業は次ぎのとおりとする。

1．国際応用心理学会等の，応用心理学関係の国際学会との連携あるいは協力活動
2．わが国の応用心理学の成果の国際社会への周知
3．国際講演会，国際シンポジウムの開催
4．広報活動
5．その他，委員会が必要と認めた事業

日本応用心理学会シンポジウム委員会規程（1999.3.26.常任運営委員会承認）

（趣旨）

第１条　応用心理学の周知を図り，学会の振興を図るために，日本応用心理学会（以下，「本学会」という）に，シンポジウム委員会を置く。

（組織）

第２条　シンポジウム委員会の委員（以下「委員」という）の定数は，若干名とする。

2　委員長は本学会常任運営委員会で選出する。

3　委員長は常任運営委員より委員を指名する。
4　委員長は，必要に応じて常任運営委員会の承認を得て，運営委員より委員を指名することができる。
5　委員の任期は2年とする。ただし，再任を妨げない。

第3条　シンポジウム委員会には，必要に応じてシンポジウム委員会協力員（以下「協力員」という）若干名を置くことができる。
2　協力員は，本学会員（学生会員を含む）の中から委員長が指名する。
3　協力員は，委員の下でシンポジウム委員会の業務を補佐する。
4　協力員の任期は2年とする。ただし再任を妨げない。

第4条　シンポジウム委員会は次の事項について検討する。
1．本学会主催のシンポジウムの企画・立案および開催
2．本学会が共催あるいは後援するシンポジウムの企画・立案および開催
3．その他，大会主催校の要請に応じて必要な事項

日本応用心理学会広報委員会規程（1999.3.26.常任運営委員会承認）

（趣旨）

第1条　日本応用心理学会（以下,「本学会」という）の業務について周知を図るために，本学会に広報委員会を置く。

（組織）

第2条　広報委員会の委員（以下「委員」という）の定数は，3名とする。
2　委員長は，本学会常任運営委員会で選出する。
3　委員長は常任運営委員より委員を指名する。ただし必要に応じて，常任運営委員会の承認を得て運営委員より委員を指名することができる。
4　会の承認を得て運営委員より委員を指名することができる。
5　委員の任期は2年とする。ただし，再任を妨げない。

第3条　委員会には必要に応じて広報委員会協力員（以下「協力員」という）若干名を置くことができる。
2　協力員は，本学会員の中から委員長が指名する。
3　協力員は，委員の下で委員会の業務を補佐する。
4　協力員の任期は2年とする。ただし，再任を妨げない。

第4条　広報委員会は，ニュースレターの発行等，必要な広報活動を行う。

日本応用心理学会研修委員会規程（1999.6.18.常任運営委員会承認）

（趣旨）

第2条　応用心理学についての研修活動を行うために，日本応用心理学会（以下,「本学会」という）に研修委員会を置く。

（組織）

第2条　研修委員会の委員（以下「委員」という）の定数は若干名とする。
2　委員長は本学会常任運営委員会で選出する。
3　委員長は常任運営委員より委員を指名する。
4　委員長は，必要に応じて常任運営委員会の承認を得て，運営委員より委員を指名することができる。
5　委員の任期は2年とする。ただし，再任を妨げない。

第3条　研修委員会は，本学会が主催，共催あるいは協賛する研修会に対して，必要な運営管理あるいは援助を行う。

日本応用心理学会第65回大会決算報告

1999年6月4日
於：龍谷大学

収入				支出		
摘要			金額	摘要		金額
大会参加費			1,588,000	印刷費		1,073,868
（内訳）	正会員予約分	5,000×294	885,000	（内訳）	論文集，プログラム，封筒	
	正会員当日分	5,500× 37	203,500		ポスター，参加はがき	
	臨時会員	5,500× 69	379,500		1号通信，案内文，振込用紙	
	院生	2,000× 58	116,000		コピー代，他	
	学生	1,000× 4	4,000	通信費		617,776
発表費		5,000×158	790,000	（内訳）	論文集郵送	
論文集代金			712,000		プログラム郵送	
（内訳）	予約分	5,000× 84	420,000		1号通信郵送，他	
	当日分以降	5,500× 52	286,000	宿泊費		215,430
	機関扱い	6,000× 1	6,000	交通費		72,730
プログラム代金		500× 5	2,500	人件費（アルバイト代）		647,100
写真掲載料		500× 4	2,000	文具・消耗品・会場備品		407,979
懇親会代金			509,000	懇親会費		630,000
（内訳）	予約分	5,000× 55	275,000	記念品代		110,250
	予約分（院生）	2,500× 14	35,000	シンポジスト・講師謝礼		285,200
	当日分	5,500× 28	154,000	写真費		23,544
	当日分（院生）	3,000× 15	45,000	大会運営費		316,739
機器展示費			250,000	準備委員会会合費		213,504
書籍展示費			20,000	過入金返金		338,000
学会本部より補助金			600,000	送金返金手数料		2,202
龍谷大学より補助金			470,000	繰り越し		1,162
雑収入（利息など）			11,984			
合計			4,955,484	合計		4,955,484

監査の結果，上記の収支が適正であることを認めます。

1999年6月9日

龍谷大学文学部助教授　小野寺　慶　昭　㊞

以上の通り，ご報告致します。

1999年6月10日

日本応用心理学会第65回大会
準備委員長　田　中　昌　人　㊞

1998年度決算書

収入			支出		
項目	実行額	予算額	項目	実行額	予算額
会費	5,620,500	5,040,000	第65回大会補助費	600,000	600,000
過年度分	430,500	240,000	公開シンポジウム費	280,000	250,000
本年度分	5,190,000	4,800,000			
6000×863+3000×4			印刷費	3,354,610	5,090,000
賛助会費	50,000	50,000	機関誌2号分	768,600	2,100,000
			学会史	1,700,000	1,700,000
「応用心理士」関係	1,090,000	1,220,000	名簿	748,650	950,000
			その他	137,360	340,000
積立金取崩	1,310,312	1,310,312			
学会賞・奨励賞積立金	500,000	500,000	通信費	798,690	900,000
学会史刊行積立金	810,312	810,312	機関誌郵送費	70,780	200,000
			学会史郵送費	178,410	100,000
雑収入	309,496	100,000	ミニ通信郵送費	80,320	100,000
			名簿関係郵送費	232,940	350,000
			その他	236,240	150,000
			機関誌編集費	37,628	250,000
			学会史編集費	155,000	250,000
			さいころじすと郵送費	39,491	50,000
			諸学会間連絡会会費	0	10,000
			「応用心理士」関係費	402,019	620,000
			学会賞・奨励賞関係経費	94,500	120,000
			交通費	532,760	500,000
			事務局費	526,955	750,000
			アルバイト費	1,473,800	1,350,000
			予備費	0	291,422
小計	8,380,308	7,720,312	小計	8,295,453	11,031,422
前年度繰越金総額	3,511,110	3,511,110	次年度繰越金総額	3,595,965	200,000
名簿作成積立金	0	0	名簿作成積立金	200,000	200,000
学会史刊行積立金	0	0	学会史刊行積立金	0	0
前年度純繰越金	3,511,110	3,511,110	次年度純繰越金	3,395,965	0
合計	11,891,418	11,231,422	合計	11,891,418	11,231,422

以上の通り相違ありません。

平成11年7月20日

監査委員　玉井　　寛　㊞
監査委員　山本　　寛　㊞

1999年度予算書

収入			支出		
項目	予算額	98年度決算額	項目	予算額	98年度決算額
会費	5,520,000	5,620,500	第66回大会補助費	600,000	600,000
過年度分（40名）	240,000	430,500	学会賞・奨励賞	60,000	60,000
本年度分（880名）	5,280,000	5,190,000	心理学諸学会連合費	30,000	
			諸学会間連絡会会費	10,000	39,491
賛助会費	50,000	50,000	シンポジウム・講演費	300,000	280,000
			「応用心理士」関係費	870,000	402,019
「応用心理士」関係	1,220,000	1,090,000			
			委員会活動費	900,000	227,128
積立金取崩	0	1,310,312	学会史編集委員会	50,000	155,000
			機関誌編集委員会	300,000	37,628
雑収入	250,000	309,496	学会賞・奨励賞審査委員会	50,000	34,500
			シンポジウム委員会	100,000	
			国際交流促進委員会	200,000	
			広報委員会	100,000	
			研修委員会	100,000	
			印刷費	3,200,000	3,354,610
			機関誌	2,800,000	
			広報関係	150,000	
			その他	250,000	
			通信費	800,000	798,690
			機関誌郵送費	300,000	
			広報関係郵送費	200,000	
			その他	300,000	
			交通費	600,000	532,760
			アルバイト費	1,250,000	1,473,800
			事務局費	600,000	526,955
			予備費	515,965	0
小計	7,040,000	8,380,308	小計	9,735,965	8,295,453
前年度繰越金総額	3,595,965	3,511,110	次年度繰越金総額	900,000	3,595,965
名簿作成積立金	200,000	0	名簿作成積立金	600,000	200,000
			学会史刊行積立金	300,000	
前年度純繰越金	3,395,965	3,511,110	次年度純繰越金	0	3,395,965
合計	10,635,965	11,891,418	合計	10,635,965	11,891,418

日本応用心理学会常任運営委員会議事録

1999年度第1回 常任運営委員会

日　時：1999年5月14日（金）18：00～20：30
場　所：東京国際大学　国際交流研究所
出席者：稲毛・浮谷・内海・大久保・大島・大塚・小野・垣本・越河・長塚・馬場・林・平野・福原・藤田
事務局（荻野・岩田・藤瀬）

報告事項

1．1999年度（第66回）大会について（稲毛会長）
「今の子どもを理解する」というワークショップの提案がなされている。

2．機関誌編集委員会（越河委員）
24，25号の編集作業が遅れているので急いで作業を進める。
学協会著作権協議会への4月からの加入にともない，「応用心理学研究」の掲載論文の著作権が応用心理学会にあることを明記する必要が生じた。これを機会に，投稿規定，執筆規程の全般的見直しを行う予定である。

3．認定「応用心理士」事務局より（浮谷委員）
平成11年度前期申請を受け付けている。

4．学会賞・奨励賞選考委員会より（荻野事務局長）
運営委員に学会賞・奨励賞の推薦依頼状を送付。5月28日が推薦の締め切りである。

5．学協会著作権協議会との契約について（荻野事務局長）
本年から契約（費用年間2000円）。著作権が日本応用心理学会にあることを定めた投稿規定を要求されている。機関誌編集委員会にこれを盛り込んだ投稿・執筆規定に改訂する案の作成を依頼した。

6．その他
科研費の業務が日本学術振興会に委託されたことについて文部省から連絡があった。

審議事項

1．日本心理学諸学会連合会則について
日本心理学諸学会連合から送付された会則について，会長および事務局長より応用心理学会としての対応について以下のように提案され了承された。
① 会則・細則案について原則として賛成する。
② 学会の正会員数を最新の1,007名で報告する。
③ 理事（会員1000名以上2名）として会長，事務局長を出す。

2．研修委員会企画検討委員会報告について
企画検討委員会では研修委員会を設置することが適当であるという結論にいたった。理由として，認定「応用心理士」の研修，生涯学習の視点，資格を出している諸学会も研修の機会をもうけてトレーニングを受ける機会を提供している等が挙げられた。
次回，研修委員会規程案を事務局より提出することとなった。

3．委員長選出
下記の通り各委員長の選出が行われた。
1) シンポジウム委員会委員長：平野
2) 国際交流委員会委員長：長塚
3) 広報委員会委員長：林

4．認定「応用心理士」関係平成10年度決算
平成10年度決算について岡村委員長の代理として浮谷委員より説明があり，承認された。

5．平成10年度決算
平成10年度決算について荻野事務局長より説明があり承認された。

6．認定「応用心理士」関係平成11年度予算
平成11年度予算案について浮谷委員より説明が行われ承認された。
なお，今年度より，研修委員会が設置されるので研修に関わる予算を削除，広報関係費については，広報委員会が設置されたのでこれに関わる予算も削除された。

7．平成11年度予算
平成11年度予算案について事務局長より説明が行われ継続審議となった。
従来との変更点として，委員会活動費を消耗品費，通信費，交通費，会議会合費等とする。但し大口の印刷費等は含まないことを確認した。

8．2001年度（第67回）大会開催校について
荻野事務局長より，岩手県立大学から開催の申し出があることが報告され，承認された。

9．新入会員審査について
正会員として23名，学生会員として1名の入

会が承認された。

1999年度第2回 常任運営委員会

日　時：1999年6月18日（金）18:00～20:30
場　所：東京国際大学　国際交流研究所
出席者：稲毛・浮谷・内海・大久保・大塚・岡村・小野・神作・越河・田中（昌）・長塚・馬場・林・平野・福原・正田・藤田
事務局（荻野・神田・岩田）

報告事項

1．1998年度（第65回）大会決算報告（田中昌人前大会委員長）
会計報告が行われ，承認された。

2．1999年度（第66回）大会について（稲毛会長）
(1) 6月15日現在の参加申し込みは229名，発表申し込みは153名。
(2) プログラムの発送は8月はじめになる見込みである。

3．機関誌編集委員会より（越河委員）
本日第1回編集委員会を行った。
現在の投稿論文は10編（採択1編，不採択1編，審査中3編，査読者選定中5編）
25号をできるだけはやく出すように作業を進めている。

4．学会史編集委員会（荻野事務局長）
村井委員長より補遺発行のための資料収集への協力要請があったことを伝達。

5．日本心理学諸学会連合第1回理事会報告（稲毛会長）
第1回理事会が5月15日に開催され，応用心理学会から稲毛会長と荻野事務局長が理事として出席。連合の会則が大きな変更なく採択された。諸役員が選出された。

6．心理学諸学会間連絡会報告（林委員）
(1) 6月上旬連絡会の会議が開催された。
連合の機能がはっきりせず，連絡会のそれを果たせるのかという疑問が出され，この点につき，連合に打診する。
連絡会の機能を果たせるのであるのなら連絡会を解消してゆく。

7．その他（荻野事務局長）
(1) 岩手県立大学から2001年度の大会を引き受けてもよいとの返事があった。
(2) 学術登録団体の申請手続きを行った。
(3) 学術情報センターによって大会発表論文集の電子図書化が行われ，ネットワークを通じての利用に応じて利用料が支払われることになる。これについては，論文の著作権が学会に帰属するなどその扱いを明確にする必要がある。この点が認められれば，発表論文集の電子図書館サービスへの移行を承諾する旨を，情報センターへ返答する予定である。（移行は了承された。）

審議事項

1．名誉会員の推薦
大島貞夫，山岡淳，中原弘之の三氏を推薦することが承認された。

2．学会賞・奨励賞第2次選考
学会賞・奨励賞の第2次選考を行い，選考委員会の第1次選考結果に基づき以下の通り決定した。
・学会賞　向井希宏氏
・奨励賞　申　紅仙氏

3．研修委員会規程について
事務局提案の原案通り承認された。

4．各種委員会委員選出
各委員長から指名があり下記の通り決定した。また研修委員会委員長が選出された。
(1) シンポジウム委員会委員（平野委員長）
内海，藤田
(2) 国際交流委員会委員（長塚委員長）
垣本，福原，正田，村井
(3) 広報委員会委員（林委員長）
浮谷，神作
(4) 研修委員会委員長の選出
大久保委員が委員長として選出された。

5．認定「応用心理士」関係　1999年度予算（岡村委員）
認定「応用心理士」事務局長より提案された予算案の通り承認された。

6．1999年度予算について
事務局長より提案された予算案が，一部訂正の上，承認された。

7．新入会員審査（荻野事務局長）

再審査1名を含む19名の入会が承認された。

1999年度第3回 常任運営委員会

日　時：1999年7月23日（金）18：00～20：30
場　所：富士短期大学高田記念図書館
出席者：稲毛・坂野・浮谷・内海・大久保・大塚・岡村・小野・越河・長塚・中村・馬場・林・平野・福原・藤田・正田・村井
事務局（荻野・岩田・藤瀬）

報告事項

1．1999年度（第66回）大会について（稲毛会長）
大会プログラムの発送作業を急いでいる。
発表件数140件前後の見通しである。

2．2000年度（第67回）大会について（坂野副会長）
大会期日を2000年9月9，10日（土，日）としたい。

3．委員会報告
1) 機関誌編集委員会（越河委員）
1編を原著，1編を資料として審査を終了。公開シンポジウムを併せて25号を発行する。
2) 学会史編集委員会（村井委員）
補遺を出すための資料を蒐集している。
3) 国際交流委員会（長塚委員）
委員会として，学会としての国際交流の進め方について意見の交換と情報の収集を行った。
・ 2002年にシンガポールで開催される国際応用心理学会への参加を呼びかける。
・ 同じく同大会で応用心理学会主催のシンポジウムを開催する。
・ 来年度ストックホルムで開催される国際心理学会への参加勧誘を行う。
・ 国際的研究活動を行う。
・ 他学会に国際交流委員会ができたことを通知する。
・ 国際学会に関する情報提供を行う。
4) 広報委員会（林委員）
「ニュースレター」の発行を予定している。

4．事務局より
1) 名誉会員の推薦について
名誉会員に推薦することについて，大島，中原，山岡の三先生のご承諾をいただいた。
2) 論文集の電子図書化について
今大会より，大会論文集に掲載される論文の著作権は応用心理学会にあることを，大会の原稿募集の段階で告知するようにしたい。
3) 山口県警科学捜査研究所から賛助会員の申し出あった。
4) 平成10年度決算の会計監査を受けた。
5) 人間工学会からシンポジウム「カーナビ・携帯電話の利用性と人間工学」の協賛依頼があり承諾した。
6) 機関誌への広告掲載について
会員斉藤勇氏（立正大学）の協力を得て広告の募集を行うことを了承されたい。

審議事項

1．研修委員会委員の選出
大久保委員長の指名により，以下の通り決定した。
大塚，岡村，田中（富），田中（昌），荻野。

2．監査委員の選出方法と任期について
事務局長より，会計監査の任期および選出母体について明確にする事が求められ，以下の2点を確認した。
・ 監査委員は運営委員以外の会員から選出する。
・ 任期は2期4年位をめどとし，監査の任を終えた場合はその後運営委員となることを求める。

3．新入会員審査
正会員として15名，学生会員として2名の入会を承認した。

4．2000年度（第67回）大会日程について
2000年9月9日（土），10日（日）の両日の開催日程を承認した。

会員異動

新入会員（1998. 4月～1999. 3月）
（氏名，① 現住所，② 所属）

三浦　麻子

②大阪大学人間科学部

吉田　　恵

石田　真知子

②東北大学医療技術短期大学部　助教授

坂元　　章

②お茶の水女子大学大学院人間文化研究科複合領域科学専攻　助教授
渡辺　ナツ子

②都立広尾看護専門学校　専任教員
川畑　実和

②関西大学大学院社会学研究科社会心理学専攻博士課程
藤江　　学

②桐蔭横浜大学　教授
坂上　徹雄

②パーソネル・マネジメント・センター研究室室長
大佐賀　敦

②東北学院大学大学院医学系研究科生態機能制御学講座細胞生理学分野　在学
坂本　知子

②足利短期大学看護科　助手
矢代　顕子

②都立保健科学大学看護学科　講師
泉　　耕二

②東海銀行国際資金証券企画部　行員
萩原　朋子

②慶應義塾大学病院　看護婦
加藤　奈保美

②東京都立北多摩看護専門学校　教諭
大谷　則子

②千葉県立衛生短期大学　助手
井上　孝代

②明治学院大学文学部心理学科　教授
野田　光子

②東京都立大塚看護専門学校　専任教員
石川　尚子

②呉みどりヶ丘病院　心理士
布施　晶子

②早稲田大学大学院文学研究科
横内　廣夫

②華頂女子高等学校　教諭
高木　宣行

②龍谷大学大学院文学研究科
岡崎　真理子

平沼　博将

②京都大学大学院教育学研究科博士課程在学
別府　　哲

②岐阜大学教育学部　助教授
山本　弥栄子

②龍谷大学文学研究科教育学専攻修士在学
前田　美佳

②アップリカ葛西株式会社
小田　慶子

②米田宏己法律事務所
大前　玲子

②寝屋川市家庭児童相談室　主幹
早坂　郁夫

②㈱三和化学研究所熊本霊長類パーク　所長

鵜殿　俊史

②㈱三和化学研究所熊本霊長類パーク　課長補
寺本　　研

②㈱三和化学研究所熊本霊長類パーク　係長
大橋　喜美子

②関西保育福祉専門学校　専任講師
北村　陽子

②近江八幡市立市民保健センター　発達相談員
桒原　岳史

②救世軍社会事業団救世軍希望館
神戸　一秀

②中京大学文学研究科修士課程心理学専攻在学
木邨　真美

②京都教育大学大学院　在学
石川　智久

②龍谷大学文学部日本語日本文学科
角野　善司

②帝京大学文学部心理学科　助手
高柳　信子

②文教大学人間科学部　教授
佐々木　美智子

②鹿児島短期大学　非常勤講師
山本　悠子

②北海道大学歯学部附属病院特殊歯科治療部言語
治療室　助手
植中　雅子

②甲南大学文学部人間科学科聴講生
堀内　一未

②国際医療福祉大学保健学部看護学科　助手
梅林　奎子

②群馬パース看護短期大学　教授
川除　節子

②東京国際大学大学院在学
羽田　千恵子

②滋賀県立草津養護学校　教諭
広川　律子

②愛徳福祉会南大阪療育園　主任心理判定員
古賀　奈美

②乙金病院　心理士
杉本　裕司

②熊本大学文学部人間科学科　助教授
谷川　弘治

②西南女学院大学保健福祉学部　助教授
中村　順子

②草津市役所児童家庭課　心理判定員
中村　隆一

②草津市役所児童家庭課　発達相談員
本田　真知子

②龍谷大学文学部研究科教育学専攻大学院
後藤　有美

②安来第一病院　臨床心理士
小林　勝年

②稚内北星学園大学情報メディア学部
北村　晋一

②東京都立北養護学校　教諭

小倉　昭平

②同志社大学　嘱託講師
安部　眞喜子

②清水内科医事科相談室　相談室カウンセラー
瀬下　律子

②厚生中央病院
宋　　桂華

②社団法人・中国・大連開発区中日文化交流協会
秘書長
高城　寛志

②寝屋川市役所保健衛生部健康増進課 発達相談員
関谷　　健

小倉　直子

②龍谷大学文学研究科教育学教育心理専攻修士
若山　由子

②お茶の水女子大学大学院研究生
小野田　恵

②東京家政大学文学部心理学教育学科　助手
河原　紀子

②京都大学大学院教育学研究科博士課程
藤野　友紀

②京都大学大学院教育学研究科博士課程
加藤　聡一

②東京理科大学理学部第一部教養学科　専任講師
服部　敬子

②京都大学大学院教育学研究科　日本学術振興会　特別研究員
松田　千都

②京都大学教育学部日本学術振興会　特別研究員
坂野　　登

②神戸親和女子大学文学部人間科学科　教授
吉田　恒彦

②龍谷大学文学研究科教育心理学専攻　助教授
荒木　美知子

②京都教育大学　非常勤講師
戸高　輝昭

②トヨタ自動車九州
浜田　和子

②山内病院　心理士
蓮輪　朋美

②晴明病院
山本　恵一

②東京国際大学人間社会学部　助教授
田處　浩壱

②龍谷大学文学研究科教育学専攻教育心理学大学
院修士
柏　　樹群

②流通科学大学大学院流通科学研究科修士課程
梅岡　直子

②龍谷大学大学院文学研究科教育学専攻在学
杉田　明宏

②大東文化大学文学部教育学科　講師
森　　崇王

②慶応義塾大学大学院社会学研究科社会学専攻在学
藤原　　恩

②地域療育センターひまわり教室　心理判定員
井田　裕司

大島　美和

②龍谷大学文学研究科教育学専攻修士課程
長崎　純子

②龍谷大学文学研究科教育学専攻
卜部　敬康

②龍谷大学　非常勤講師
山本　陽子

②龍谷大学科目履修生
竹下　秀子

②滋賀県立大学人間文化学部
山田　泰之

②東京医科大学病院　看護士
東方　　愛

②京都教育大学修士課程在学
木村　　純

②川村学園女子大学文学部心理学科　助手
加久　　綾

②老人保健施設博慈苑　介護補助デイケア
北村　久光

②カルチャースクール学鈴　講座担当・研究
花畑　一吉

②姫路市立増位中学校　教諭
棚原　健次

②沖縄国際大学文学部社会学科　教授
野附　みさこ

STEP こ
ども発達相談室　心理教育相談員
小川　幸宣

②滋賀県立守山養護学校大津分校　教諭
上野　悦子

②子ども総合研究所　所長
光定　えり

石田　信子

②西南学院中学校　養護教諭
守島　　恵

②下京保育所　副主任保母
東海林　則子

②神奈川県総合リハビリテーション事業団　生活
指導員
杉浦　智子

②枚方市役所　巡回相談員
西川　牧江

②社会福祉法人育心会児童育心寮　処遇課処遇職
田中　厚志

②龍谷大学大学院文学研究科教育学専攻在学
赤塚　　隆

山口　一美

②立教大学大学院文学研究科心理学専攻

学生会員
森　加代子

②創価大学教育学部　在学中
手代木　綾

②文京女子大学人間学部　在学中
木村　たき子

②文京女子大学人間学部　在学中
井上　裕樹

②龍谷大学文学部　在学中

98年度退会者名簿一覧（57名　1998.4～1999.3）
住所不明により退会（10名）
王　　晋民，鈴木　康美，大橋美華子，堀川　悦夫，
福原　浩二，小林　和夫，小林　　東，臼井　喜彦，
小滝　慶一，鉄村　和恵

長期滞納により退会（6名）
蔵本　逸雄，櫻井　広幸，佐藤　義隆，島袋　香子，
浜田　卓子，濱永　　裕

逝　去（3名）
謹んでご冥福をお祈りいたします。
鬼澤　　貞，川村　玲子，尾園　成穂

退　会（38名）
三宅　隆之，打田　茉莉，金井　悦子，西村　純一，
桑田　　繁，星野　明子，張替　直美，佐々木初夫，
御園生晴彦，永安美香子，渡辺　洋一，五井　朱実，
八田　智子，太田　芳男，内田　誠也，辻川　　新，
渡辺　美香，安藤　満代，安藤　清志，市川　知子，
佐多　道子，岡村　千鶴，平木　典子，鉅鹿　健吉，
桜井　三与，佐野　　道，石風呂素子，渡辺　はま，
岡本　淑人，鳥越佐和子，片岡　　博，佐藤　和己，
天津　正順，東條　光彦，久米　康一，早坂　郁夫，
水口　　有，森　加代子

寄贈文献（1998.4～1999.3）
学会事務局に以下の雑誌類・著書が寄贈されていますのでご利用下さい。

第5回交通調査・研究発表会要旨集（財東日本鉄道文化財団）1998
東北教育心理学研究（東北大学教育学部教育心理学研究室）1998　第6巻
JAPANESE HELTH PSYCHOLOGY (THE JAPANESE ASSOCIATION OF HEALTH PSYCHOLOGY, TOKYO) 1998 No.6
応用社会学研究（東京国際大学大学院社会学研究科）1998　第8号
基礎心理学研究（日本基礎心理学会）1999．3　第17巻　第2号
健康心理学研究　1998　Vol.11 No.1, Vol.11 No.2
上智大学心理学年報（上智大学心理学科）1998　第22巻
筑波大学心理学研究（筑波大学心理学系）1999　第21号
電気通信普及財団研究調査報告書（電気通信普及財団）1999　No.13　I, II
東海大学紀要（教育研究所）1998　第6号
東京学芸大学紀要　＜第1部門教育化学＞（東京学芸大学紀要出版委員会）1998.3　第49集，1993.3　第50集
学校教育学研究論集（東京学芸大学院連合学校教育学研究科）1998　創刊号
名古屋大学教育学部紀要（名古屋大学教育学部）1998　第45巻（心理学），1998　第45巻　第1号（教育学），1998　第45巻第2号（教育学）
人間関係学研究（日本人間関係学会）1998　第5巻第1号
安田女子大学大学院文学研究科紀要　児童教育研究（安田女子大学児童教育学会）1999　第8号
山梨大学教育学部研究報告（山梨大学教育学部）1997　第48号
早稲田心理学年報（早稲田大学文学部心理学会）

1998 Vol.30 No.2, 1999 Vol.31 No.1

学術の動向（日本学術協力財団）1998. 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 12, 1999. 1, 2, 3

科学警察研究所報告（科学警察研究所）1998　39巻　2号

慶應義塾大学大学院　社会学研究科紀要　1998　第47号

産業安全研究所技術指針（労働省産業安全研究所）1998.3 No.34, 1999.3 No.35, No.36

心理学専攻紀要（明治学院大学大学院文学研究科）1998　第3号

学術情報センター紀要（学術情報センター）1999年　第11号

交通科学（大阪交通科学研究会）1998　Vol.27 No.1, 2 1998 Vol.28 No.1, 2

指導と評価（日本教育評価研究会）1998. 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 12, 1999. 1, 2, 3

心理学ワールド（日本心理学会）1998　心理学ワールド1, 2, 3, 4

人事試験研究（日本人事試験研究センター）1998 No.167, 168, 169, 1999 No.170

テレコム社会科学学生賞入賞論文集（財団法人電気通信普及財団）1998 No.7

テレビ・ラジオ番組個人視聴率調査（NHK放送文化研究所）1998.6, 1998.11

放送研究と調査（NHK放送文化研究所）1998. 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 12, 1999. 1, 2, 3

IATSS, Review（国際交通安全学会誌）1998 Vol.24 No.2, Vol.24 No.3

悲しみの前に（内田玲子）1999.2

カウンセリングへの道（ウェズリー P. ロイド著　福原真知子訳）1999.1

癒しの心理療法（酒井　充）1999.2

国立身体障害者リハビリテーションセンター「研究紀要」平成10年　第19号

産業安全研究所年報　平成10年度

日本子ども家庭総合研究所紀要　平成10年度　第35集